

## ◆普天間飛行場から派生する主な基地被害

### ●墜落の危険性

- 普天間飛行場所属機による事故：**97回**（平均で約2.2回/年）

（件数は本土復帰から2013年11月末までを集計）

→2013年には普天間飛行場所属機のハードランディング（落下着陸）が2件報告されており、うち1件はハードランディング後炎上するなど、深刻な事故が相次いでいる。

- 2004年に沖縄国際大学への米軍機ヘリ墜落事故が発生

→宜野湾市が指摘し続けた危険性が現実になった事故。死傷者は出なかったものの、多数の物的被害があった。

### ●騒音被害

- 騒音発生回数：**16,000回以上**  
環境基準値超過日数：**227日（62.2%）**（2012年度、上大謝名地区）

→最近では、飛行による騒音以外にも基地内でのエンジン調整音やホバリングによる騒音や夜間・早朝における騒音も深刻化している。

- 苦情件数：年間**200件以上**

→騒音苦情は年々深刻化しており、沖縄大ヘリ墜落事故以降は精神的苦痛や恐怖を訴えるものになっている。

### ●地デジ受信障害

- 地デジ受信障害に伴う苦情：**387件**（2011.7.24～2013.12月末）

→米軍機の旋回飛行訓練等により、2時間以上にわたり5分に1回受信障害が発生するとの苦情も寄せられている。

これらの基地被害は、普天間飛行場がなければ発生し得ないものであり、根本的な原因である普天間飛行場を早期に閉鎖・返還することが必要です。